滝高フロンティアサイエンス通信

海外研修特集号　［平成 27 年８月 17 日～24 日］　第１４号

マレーシアレポート
4日目（8月 20 日）

私達がマレーシアにやってきて4日目。この日はまず、サバ大学で現地の学生とともにマレーシアについてまとめる作業を行いました。私達が事前に学んでいたマレーシアの環境や社会情勢について現地の高校生と意見を交換し、アドバイスをもらい、6日目にあるポスター発表に備えました。異文化を理解することの難しさはもちろんのこと、英語での交流にも苦戦しながら、作業を進めました。

作業の合間には現地の人々がマレーシアの抱えた環境問題や、課題についてパワーポイントも交えて教えてくださり、ポスター作製の大きな助けとなりました。さらに私達の自然に接する態度にも少なからず影響を与えてくださいました。例えば木の伐採によって森林が減っていると聞いた時には、マレーシアの貴重で豊富な自然を守りたいと感じ、また、日本に帰った時、自然を守るために私には何ができるだろうか、と考えることが出来ました。

午後からは、マリマリカリチュラルビレッジという、マレーシアの原住民族の暮らしや文化を見学、および体験する施設へとやってきました。「マリ」とはマレーシアの言葉で「おいで」という意味だそうで、その名の通り観光客向けのスポットなのか、多少は日本語を話すことが出来る人もいました。マレーシアの民族を学んでいき、そして驚いたのが、かつてマレーシアには首狩り族という、その名の通り人の首を切り落とし、頭蓋を奪う民族がいたそうです。「ムル族」というその民族は、人の頭がい骨には神が宿るという宗教観念のもと、他者の頭蓋を奪い、自らの力を強くするためにコレクションしていたそうです。

「ムル族」のほかにも実に多様な民族が多様な文化を形成しており、各民族の家の造りの違いを観察したり、民族の料理を試食したりすることができました。

そして、ここで最も楽しく、かつ民族特有の雰囲気を感じることが出来たのは、なんといってもショーでした。民族特有の楽器の奏でる軽快な音楽に合わせて、民族衣装をまとって人が踊る様は、胸が熱くなりました。テレビなどでも見たことがあるバンブーダンスは客である私達も参加することができました。

私は、この古臭くも美しい伝統を無くしたくないと思いました。非効率だからと現代から淘汰され、人々の記憶から薄れていく伝統。それを私達が護り、受け継いでいくには、自分の意見を言うことの出来る自己の強さ、自然を尊ぶ心だと、現地の人々の言葉やマレーシアの自然に学びました。

4日目はマレーシアの風土にどっぷりと浸り、学んだ、非常に有意義な一日でした。伝統を護りたい、古いからといって淘汰されるべきではない、そう思えたことは、私にとって大きく、良い変化だったと思います。

（報告者）2A04 北山博之